

W32-4349

アジレント・テクノロジー

4ch高抵抗計 4349B

使用できる機種 4349B

4349Bは、米国アジレント・テクノロジー社の商標です。

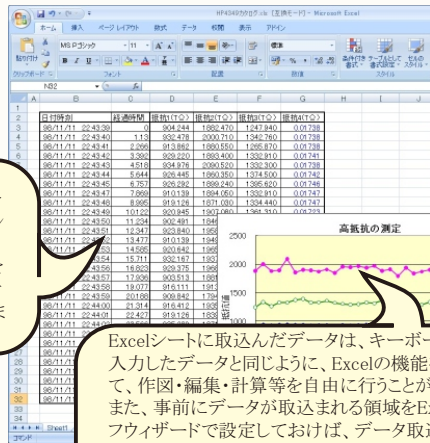
品番	GP-IBボード	価格	動作環境
W32-4349-R	ラトックシステム製	80,000円	Windows7/8.1/10 (32bit or 64bit) Excel2010/13/16/19 (32bit only)
W32-4349-N	NI製		

機能



- データロガーとしての活用
指定された時間間隔で指定された個数のデータをリアルタイムにExcelシートに取込みます。外部トリガ入力の取込もできます。
- 製品検査への活用
被測定物を取り換えながら、個々のデータをExcelシートに取込みます。
- 4チャンネル同時測定が可能です。

概要



本プログラムはExcel上のアドインとして動作します。Excel上から本アドインを起動すると、Excelシート上に、このウィンドウが現われます。ファンクション、電流レンジ、時間間隔、取込回数等を設定し「START」ボタンをクリックするとデータの取り込みを開始します。

スタートすると、ファンクション・電流レンジ・測定電圧などを設定した後、指定されたサンプル時間間隔で、指定されたサンプル数のデータを取込みます。必要なら日付時刻も付加することもできます。

Excelシートに取込んだデータは、キーボードから入力したデータと同じように、Excelの機能を利用して、作図・編集・計算等を自由に行うことができます。また、事前にデータが取込まれる領域をExcelのグラフウィザードで設定しておけば、データ取込とグラフ化がリアルタイムに行えます。
※本アドインに自動グラフ作図機能はありませんので、Excelのグラフウィザードを使用して作図してください。



操作説明

測定器からデータの取込を開始します。

測定中は「赤色」、ポーズ中は「青色」、停止中は「灰色」となります。

測定ファンクションを設定します。

そのチャンネルの測定を行うときチェックを付けます。

電流レンジをAUTO/MANUALで切換えます。AUTOのチェックを外すとレンジ入力用テキストボックスが現れますからレンジをキーボードから入力します。厳密な値を入力する必要はありません。入力された値が一番近い1つ上のレンジに設定されます。1つのチャンネルを「AUTO」に設定すると他の全てのチャンネルもAUTOになります。

各チャンネルに外部から与えるDC電圧値を入力します。

トリガ方法
「内部」: FEE RUN状態で測定します。
「パソコン」: HOLD状態で、測定毎にパソコンがトリガをかけます。
「パネル」: 測定器のトリガボタンを押すことにより測定します。
「外部端子」を選択すると、測定器裏面のトリガ端子よりトリガがかかります。通常は「パソコン」を選択します。

その他の測定条件を設定します。

データの取込を一時中止します。もう一度クリックすると、取込を再開します。

データの取込を停止します。

「PAUSE」中、有効となり、クリックする毎にデータを取り込みます。また、「スポット専用測定モード」の場合、このボタンで、測定を行います。

Excelシート上のカーソルを左右・上下に移動しデータ取込開始位置を決定します。「Start」ボタンをクリックするとカーソル位置から下方向へデータを取込みます。

他の設定(下記参照)

データを取込む回数を指定します。但し、「STOP」ボタンでいつでも中断できます。また、何も入力されていないときは、64000回と解釈されます。入力できる最大回数は、64000回です。

データを取込む時間間隔を秒の単位で入力します。ここで入力した時間と実際の時間間隔では若干の差異が発生します。何も入力が無い場合やゼロが入力された場合は、最速でデータを取り込みます。入力できる最大時間は、3600秒です。

データの入力と共にシートをスクロールします。

データに日付時刻を付加します。

最初のデータ取込時、測定項目名等のヘッダを付加します。

測定時間モードを選択します。

測定器本体で設定したGP-IBアドレスと同じ値を設定します。

スポット専用測定モードの使用方法

検査等で被測定物を取り換えながら測定する場合に、このモードを使用します。「PAUSE」ボタンを先にクリックして、その後「START」ボタンをクリックすると「スポット専用測定モード」になります。マルチメータの設定が行われた後、「SPOT」ボタンのクリック待ちとなります。「SPOT」ボタンをクリックする毎にデータがExcelシートに取込まれます。この時「SPOT」ボタンをクリックする代わりに「スペース」キーを押しても同様の結果となります。この「スポット専用測定モード」では、「経過時間」の欄には1,2,3...と「連続番号」が入力されます。例えば、被測定物を取り換えながら、個々の被測定物の測定を行う場合に便利です。トリガが外部端子設定の場合、最初1度だけ「SPOT」ボタンを押すと、外部端子のトリガ信号だけで、データの入力が行われます。「スポット専用測定モード」を終了するためには、「STOP」ボタンをクリックします。

